

嚶鳴フォーラム開催にあたって

すずきあつお
鈴木淳雄◎愛知県東海市長

嚶鳴（おうめい）

孔子が編纂したといわれる中国最古の詩集『詩経』の中に、

「木を伐ること丁丁（とうとう）たり、鳥の鳴くこと嚶嚶（おうおう）たり、幽谷より出でて喬木（きょうぼく）に遷（うつ）り、嚶として其れ鳴くは、其の友を求むる声なり」という一節があります。

嚶鳴とは、鳥が仲間を求めて鳴き交うという意味であり、転じて仲間を求めて切磋琢磨（せつさたくま）しながら、ともに学び、ともに成長しあう姿を表しています。

また、今から二百五十年ほど前、東海市出身の儒学者・細井平洲（ほそい・へいしゅう）先生は、江戸で、私塾・嚶鳴館を開きました。教育を通して時代に大きな影響を与えた平洲先生は、そこで全国から集まってきた有為の人々と交流され、多くのことを教え、また多くのことを学ばれました。

嚶鳴フォーラムは、少子高齢化などさまざまな問題を抱えながらも地方分権が進む今の時代に、ふるさとの先人を活かしたまちづくり、人づくり、心そだてを進めている自治体が協力し合い、歴史を活かしたふるさとづくりを、「情報として全国に発信」していくことを目的に開催するものです。

地方分権の時代は、地域間競争の時代でもあります。切磋琢磨しながらお互いを高めていくという「嚶鳴」の言葉の下に、先人の教えを活かしている自治体が集まり、全国さまざまな歴史上の人物を掘り起こしておられる作家・童門冬二氏をコーディネーターに向かえ、ともに学び、ともに考えてまいります。

日本が元気になるには、東京への一極集中だけでは成り立ちません。まちづくり、人づくり、そして心そだてに前向きに取り組む、地方の元気があってこそ、わが国の発展はあるのだと確信しています。

『平成19年度嚶鳴（おうめい）フォーラムレジュメ「道」』より

無断転載はご遠慮下さい。